



家庭訪問をする中で感じる住民ニーズの代弁者として、地域につなげることができると、とてもやりがいを感じます。

保健師 玉島保健福祉センター 玉島保健推進室

小野 翔子 (おの しょうこ)

平成28年度入庁

なぜ、倉敷市職員に？

私は、幼い頃から看護師になることが夢で大学へ進学しましたが、保健師実習で出会った保健師を見て、「絶対保健師になりたい」と強く思うようになりました。それは、地域に出て住民の声に耳を傾け、住民と協働しながら、地域の健康づくりをする姿でした。実習先は、高齢化率35%以上の人口数万人の市でしたが、「自治体の規模や予算、特性は様々だが、そこでできることを保健師が“みて・つないで・うごかす”ことが面白いのよ」との言葉に、私も生まれ育った倉敷市でそれをやってみたいと思うようになりました。

現在担当している仕事内容は？



玉島保健推進室では、市民の皆様の健康づくりのための様々な事業を行っています。私は、一つの小学校区を担当し、赤ちゃん等の家庭訪問、地域のボランティア組織と協働して、ミニ健康展の開催や地域に出向いて健康づくりの啓発活動をしています。また、窓口で妊婦さんと面接して、おやこ健康手帳を交付したり、1歳6か月児・3歳児健康診査で、保護者の方と一緒にお子さんの成長を確認しています。

入庁1年目のとき、担当地区の前任保健師への思いが残る住民に、新人の私は受け入れてもらえるか不安でした。そのため、地域の行事や集まりの機会を逃がすまいと、健康教育・啓発に何度も足を運び、顔と名前を覚えてもらいました。すると、「あ、保健師の小野さん！今度、こんな会があるけど来たら？」と、声をかけてくださることが増え、それと同時に、データだけでは分からなかった地域のことが見えてくるようになりました。2年目では、地域の核となる方々と一緒に何度も話し合いながら、地域活動福祉計画策定に向けた地区診断に取り組んでいます。保健師が、地域のメンバーの1人として意見を求められ、普段、家庭訪問をする中で感じる住民ニーズの代弁者として、地域につなげることができると、とてもやりがいを感じます。

保健師の仕事は、地域の一員となって楽しむことが大切だと思っています。それが、支援者の立場ではなく、住民とともに「みて・つないで・うごかす」ことにつながるのだと実感しています。

倉敷市職員になってよかったことは？

最初は、育児経験のない私がお母さんたちの不安や悩みにも、役に立ったという手応えがなく疑問だらけでした。しかし、忙しい中でも、訪問から帰って相談すると、上司や周りの同僚と一緒に悩んだり、時には背中を押して見守ってくれる環境は私の自信につながりました。そして、お母さんたちに真摯に向き合うことで、「今日の訪問の時間は本当に良かった。少し気が楽になった。ありがとう。」の言葉をいただくと、倉敷市職員として認められたように実感します。担当地区をもつ責任の重さもありますが、地域に愛着がわき、仕事を楽しめます。



志望者に向けてメッセージ

幅広い保健師活動では、知識や経験が求められることも多いですが、倉敷市には約90名の保健師がおり、尊敬する先輩方に囲まれ、支援方法について意見交換したり、悩みを聞いてくれるサポートがあります。また、保健師としての研修も充実しており、先輩・後輩とスキルを高め合える環境もあります。また、地域住民と色々な行事と一緒に取り組むことができるため、日々やりがいを感じながら、とても楽しく仕事をしています。倉敷市で、皆さんと一緒に仕事ができることを楽しみにしています。